

ナチュラリストの フィールド日記 ③15

中川宗孝(環境生物研究会・城陽環境パートナーシップ会議)

活動再開！フィールドの女神からの贈り物

今年も上半期が終わり、例年なら夏休みの計画で心弾む7月も、依然新型コロナ拡散の脅威からなかなか本格始動できないもどかしい盛夏を迎えています。動物園や水族館に博物館など、ミュージアム巡りとローカル列車の旅を一番の趣味とするナチュラリストにとって、「JR青春18きっぷ」のシーズン到来を毎回待ち望んでいます。この冬には、国立科学博物館や名古屋港水族館などの定番ミュージアムに、秘境駅路線の飯田線や四国の琴平電鉄を堪能し、国鉄時代からの宇高連絡船が歴史の幕を降ろす12月15日にはもちろん駆けつけて半世紀の思い出に浸りました。

そして迎えた春、3月1日の発売初日に切符を購入し、西は山口県岩国市の白蛇詣でに「ときわ動物園」、東は城陽市で越冬した瑞祥の福鳥・コウノトリのひかりちゃんが滞在している房総半島の鴨川市を訪ねて、いすみ鉄道と小湊線の列車の旅を思い描いていましたが、キャンセルせざるをえないコロナウィルス緊急事態宣言で、日常生活さえも支障が出る大変な状況が続いて今日の日を迎えています。

ナチュラリストのライフワークであるフィールド探査こそ、単独・短時間で最小限の課題には取り組みますが、もうひとつの柱である啓蒙活動が閉ざされ、自然観察会や各種イベントの中止は、配布資料の定番である当連載の印刷物の需要も激減して残念に思っています。また、文献や映像資料の見直しも、時間があるからといってはかどるものでもありません。フィールドの夢を追いつける想いが、健康で精神的にも平安な日常生活の礎となっていたことをつくづく実感したステイホームでした。

こうして迎えた7月、ようやく自然観察会と関連イベントが開催され、ナチュラリストの本分である郷土の自然財産である生き物たちとその生息地の環境保全の大切さを伝える啓蒙活動の舞台が整いました。2月11日から実に5ヶ月間の空白を経て7月12日に開催いただいた和東町教育委員会・町史編さん室主催の自然観察会への思い入れは、京都府初記録となる新種登録の淡水魚の発見につながりました！

そして、木津川市の「アスピアやましろ」に於いて7月25・26日に開催された「サイエンス夏祭り」では、今年もヘビやカメなど生きた教材を披露しての生き物講座です。やはりここでも強い思い入れが実り、前日にはレアなお宝生物をそれも2種類を発見することができ、和東町で見つけた新種の淡水魚共々、ホットな話題で鼻高々の実に楽しいイベントを満喫しています。

これら新発見の詳細は、あらためての経緯を追った報告で資料記録と致しますが、まずは笑顔弾ける和東町自然観察会のショットと、室内イベント開催の英断を讃えたいサイエンス夏祭りのフォトレポートをお届けし、感謝の言葉としています。たくさんの人たちに支えられ、ルートナチュラリストが暑い暑い夏を楽しんでいます。

和東町の新お宝生物・ナガレカマツカ紙面デビューを飾る前編をご覧ください。



◎活動報告
先ずは待ちに待った7月12日の和東町自然観察会の記念撮影の一枚を(写真①)活動報告に欠かせない記録写真も、今回はマスク着用で筆より、一緒に魚捕り者以外の人物の特定はできませんが、主催者の尾野和広先生(写真②右)には、アバターでタケノコご飯を(写真③)活動報告に欠かせない記録写真も、今回はマスク着用で筆より、一緒に魚捕り

や生き物探しをし、電車談義でも盛り上がるちっちゃな友達との久しぶりの時間は、コロナ鬱の何よりの特効薬となりました。雨天で増水している和東川での生き物採集は回避の予定も、やはりあきらめきれずに前日に畏

仕掛けてお宝狙いです。(写真③)会場から和東川に至る観察会コースの講師さん(写真④)も駆けつけてくれて珍蛇・シロマガラ発見のフピソドなどのお話を願うなど、和東町の野生生物生息調査に携わるナチュラリスト仲間の大勢が勢ぞろいし、3月22日に中止となった観察会のリベンジ・集大成としています。そして、もう一人、林博之先生(同中)が悪条件の和東川で魚を採



ア・優樹君と共にナガレカマツカ(同左)と写真⑤)と思われる個体を採集し、林先生に鑑定いただきました。果たして、「髭が長い」胸鰭分岐軟条12「腹部の鱗数12」より間違いないだろうとのお墨付きをもらい、半年ぶりに県をまたいで琵琶湖博物館に報告に駆け付けました。まだまだフィールドの女神に愛されしナチュラリスト健在！新種発見の朗報続編をお待ち下さい。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨